Season in the CUDO
2010年 秋号
−会員の皆様へ−

監事あいさつ

2001年8月、静岡県三島市で行われた第5回日本ショウジョウバエ研究会において、当時基礎生物学研究所の助手であった伊藤啓（現CUDO副理事長）と国立遺伝学研究所の助手であった私は、研究者向けに「色盲の人にもわかるバリアフリープレゼンテーション法」という15分間の発表を行いました。それが我々の活動の始まりです。

学会で見る伊藤啓のプレゼンテーションは、色を自在に操りカラフルでとても見易いものでした。私はそんな彼に、自分は色弱でありカラフルな図版の中にはわかりにくいものが多々あることを打ち明けました。彼から返ってきた言葉は意外なものでした。「僕も色弱だよ」

我々は、似通って見える色について話をしました。驚いたことに、見分けにくい色はほとんど同じ、見え方も言葉で探る限りほとんど変わらないようでした。他の多くの人たちと違った色の見え方をしていることは知っていましたが色弱の人同士がこれほど同じ感覚をもっていることなど、色の話を避けてきた私にとっては、考えもしなかったことです。彼も私も強度のP型色覚でした。色弱者同士の見え方には大差がないのだとすれば、具体的解決策の提案もそう難しくなく、色弱者にもそうでないC型の人にも皆にわかりやすいプレゼンテーション法を普及させることは可能だと考えました。冒頭の学会発表はそうして生まれたものです。

当初、バリアフリーと考えていたこの提案は具体的解決策を検討していくうちに、色弱者に限らず万人にとってわかりやすい情報提供方法であり、バリアフリーよりもむしろユニバーサルデザインの概念に近いものであると考えるに至りました。それが現在のCUDです。

現在私は医科大学で医師や看護師の卵たちに人体解剖学を教えています。医療分野で扱うような自然界の色、例えば、肌の色、粘膜の色、尿の色など、人間の身体に由来する色はCUD化できません。医療従事者の中にも一般社会と同じ程度に色弱者がいます。色弱者は同じ色感覚の中で技術的なトレーニングを受けているわけではありませんから、教えてもらった感覚を自分のものにするにはより多くの努力を必要とします。そんなとき、病院施設内の様々なCUD化されたハードウェアの恩恵は計り知れないものがあります。しかし、医療に限らず、専門教育の現場では教材を介した十分なコミュニケーションが不可欠です。CUD化されたハードウェアを用いた人々がどのようなコミュニケーションを取るのか、今後は教育法も含めてソフトウェアとしてのCUDをより一層考えていく必要があると感じます。

CUDな社会の実現のため、今後のCUDの進化に皆様のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構　監事
東京慈恵会医科大学　教授
岡部正隆

interview

株式会社DNPメディアクリエイト

クロスメディア開発推進本部
マーケティング開発部　部長

亀田和宏

聞き手　ク）：CUDO　話し手　亀）：亀田和宏

ク) CUDに取り組んで社内や社外の評価はいかがですか？

亀) 我々の会社は印刷･印刷関連企業なので、色に対する思い入れがあり社内は概ね肯定的ですね。社外ではやはり理解していただくのは簡単ではありませんそのような方々を説得していくのが我々の努めだと思っています。CUDの認知度は近年社会的にも浸透していますし、時代が変わってきたと実感しています。

ク) CUDを分かりやすく理解していただく為の方法・秘訣はありますか？

亀) バリアントールは有効ですね。また表層的な色弱者の見え方の説明よりも、例えとしてゴッホは色弱者であったから繊細なブルーを使い分けることができた説がある、というようなネガティブに思われがちなポイントを、ポジティブに説明をすることが理解促進につながりました。

ク) CUD普及を進めるにあたって苦労されたことは？

亀) 個人的にはCUDは思想・考え方だと思っていますが多くの方は模様をつける、赤は朱色にすれば良いというような技術的な対応をする事という認識の方が多いです。限られた知識での技術的な対応のみではなく、CUDを考え方としてもう一歩踏み込んで捉えて頂くと新たな方法論が見えて来ると思います。今日の印刷物はインターネット上にPDFファイルでアップロードされることが多いですが、受け手による出力機器は一様ではありません。経費削減等による会社でのカラープリント禁止など、印刷物による情報伝達の不良が起きてしまう可能性を考えると、カラープリントを基準とするのではなくモノクロプリンターのみの利用を想定した配色があっても良いはずです。このように「CUD配色には印刷をする際に品質を落とさず無駄にインクを消費しない方法が実はあるんです。」という経費削減にも繋がる可能性もあるというお話をすると、お客様は興味を待たれます。皆さんの意識としてあるマイナスの考え方を消してCUDをプラスに持ってくるということが今実践していることです。

ク) 技術的な対応のみではどんな問題が出てくると思いますか？

亀) カバーしきれないケースが出てくるということと同時に技術論に走ってしまいます。そうすると、送り手のより良い改善へのモチベーションが下がってしまいます。ガイドラインの制作は、本来は改善に繋がるんですが、いつの間にかガイドラインが上限となってしまい、それ以上の改善を行わなくなってしまう事があります。保守的になってしまうのではなく、本質的なことを捉えて改善・工夫していくことがCUDの世界を進化させると思っています。

ク) CUDをより進化させていく為に出来る事は？

亀) 何も無かった状況からCUDという考え方が浸透してきましたが、今日の考え方に対して新たな意見を持つ方も多く現れてくると思います。そうした場合には多様な使い手を巻き込んだ選択肢があるので、我々印刷製作会社や利用者も含め、様々な業種の方がどうやってCUDをより普及し今以上に工夫・改善していくのかを話し合う場みたいなものを作っていければと思います。国際規格のISO26000（組織の社会的責任）がマルチステークホルダー・プロセスという考え方を今回CSR基準として作ったんですが、今までであれば一部の学識者だけが基準を作っていたけれど、いろんな国のいろんな立場の人が集まって徹底的に議論していくというプロセスの中で妥当性の高いものが出来てくるのではないかという考え方です。現在CUDOが基準になって作ってきた一種の基準も、マルチステークホルダー・プロセスを利用することで一つも二つも上回るものになるんじゃないかと思っています。我々大日本印刷もマルチステークホルダーの一員として活動に参加していきたいなと考えています。またCUDという考え方を改善へ向けた技術の手引きとして、制作者である送り手がスムーズに扱えるようにし、議論を繰り返しスパイラルアップしていける様にする事が多くの可能性を秘めている事だと考えています。CUDOには是非マルチステークホルダー・プロセスの中心となってCUDをまとめていって貰いたいというのが一番のメッセージですね。

DNPのユニバーサルデザインHP

CUD歳時記

活け花の先生をしていた母は、近所のお寺の生花アレンジメントを手伝っていた。週に１度、適当な花材を持ってお寺を訪ねる。

ある時、その母のお供をした。花材の量が多かったので、私が運び役を命じられたのだ。
歩いてお寺にむかう。道を曲がって、正面に山門の見える長い参道に歩を進めた時、「なんと見事な」母は息を呑むようにそう呟いて立ち止まった。こころもち目を細めるようにしてじっと山門の方を見やっている。長い参道の先に山門があり、その奥に境内が拡がる。突き当たりに本堂があって、そのすぐうしろに裏山がある。確かにいつみても美しい景観ではあるが、見慣れた場所でもあるし、息を飲むほどのことはない。

山門の近くまで来た時、母は山門のかたわらの木を指差して今度は私に向かって「ねえ、見事でしょう？　南天の木よ」と言った。まじまじとその木を見直した私は、その時初めて、その木にびっしりと小さな赤い実がなっていることに気がついた。

この季節になるとこの時の母とのやりとりを思い出す。私の記憶に強く残っているのは南天だけだが、おそらくは寺の裏山も色づいていたのだろう。それら全体の景観が、普段とは違った息を呑むような美しさだったのだろうと思う。

山崎克哉

日本のCUD関連情報

10月1日、足立区議会議員（民主党）長谷川たか子氏が第5回マニフェスト大賞にて優秀政策提言賞を受賞した。提言タイトルは『行政・まちづくりへの「カラーユニバーサルデザイン」の導入』である。

この大賞はこれまで注目を集めることの少なかった地方自治体の首長、議員や地域主権を支える市民の活動実績を募集・表彰するもので、地方政治で地道な活動を積む人々に名誉を与え、更なる政策提言意欲の向上につながることを期待する目的がある。

受賞した長谷川議員は「大変光栄でとてもうれしく思います。（中略）色覚の多様性に合わせた取り組みを足立区から発信することで、足立区が住みやすい区になり、そしてなにより全国で同じように不自由さを感じている人たちの負担を少しでも軽くすることに繋がると考えています。」とコメントしている。

プロに聞く　景色を彩るアプリ

iPhoneアプリとして無料でダウンロード出来る「色のめがね」は色の認知や弁別をサポートする色覚ツールです。最新の色彩理論と拡張現実（AR）技術を使用して開発しました。「色のめがね」では色弱者の色覚タイプに合わせて混同しやすい色がなるべく重ならないように、すべての色を領域分割します。そして、注目する色領域に属する色の明度や色度をリアルタイムに変化させることによって色弁別をしやすくしています。

「色のめがね」を製作するきっかけとなったのは、以前の職場で同僚であった現在北海道CUDOの栗田正樹さん著書の「色弱の子を持つすべての人へ―20人にひとりの遺伝子」を読ませていただいたことです。自身の経験や学んできた事から数学、医学、メディアの三つを合わせると実は色彩や色覚の研究に使えるんじゃないかと気がついて今回「色のめがね」の開発にあたりました。

しかし実際に制作へ向かうと困難の連続でしたね。色彩理論も知らなかった為一から勉強をしなければならなかったし、ソフトウェア開発環境も以前とは全く異なっていた為、改めて準備することになり最初はかなり戸惑いました。色彩理論に関しては詳しい方を調べて多くの方に直接会いに行きお話を伺いました。大学生時代の先生が偶然にも日本色彩学会の元会長であった小林光夫先生でお力を貸していただきました。またテスト版を制作した際にCUDOを通じて実際に色弱者の方の意見をもらえたのも有難かったです。こうやって振り返ると「色のめがね」は偶然が重なり多くの方に支えられて完成しました。

多くの方に活用して頂きたいとフリーのアプリとして発表した後は想像を上回る反響に私自身とても驚きました。中でも「私に色をありがとう」というコメントを頂いたときは作ってよかったと心から喜べましたね。賛否両論を含め頂いた多くのコメントを読んでいて今後もこの「色のめがね」を利用者の日常生活から抱く意見に対応改善をしていこうと思いました。今後はデジカメなどポータビリティのある多くのメディアへの移植が普及するように努めようと思っています。

浅田一憲

1961年生まれ。
慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
博士課程在学中。
http://asada.tukusi.ne.jp/

認証取得

最近CUDマークを取得した事例をご紹介いたします。（順不同）

凸版印刷株式会社
申請書発行システム "SpeedEntry plus "
http://www.toppan.co.jp/news/newsrelease1108.html

凸版印刷株式会社
"グリーン通帳"
http://www.toppan.co.jp/news/newsrelease1116.html

ビルコン株式会社
自動窓口受付システム
"EYE-QUEシリーズ新機種"
http://www.billcon.co.jp/product/madoguchi/index.html

大日本印刷株式会社包装事業部
石井食品株式会社 "イシイのおべんとクン ミートボール" パッケージ

トッパン・フォームズ株式会社
山陰信販株式会社
"ゲゲゲの鬼太郎カード入会申込書・パンフレット" 他

news

IAUD国際会議　開催

「第3回国際ユニバーサルデザイン会議 2010 in はままつ」が今月末の10月31日から開催されます。CUDOも賛助会員であり、メディアのUDプロジェクトの主査をつとめています。
開催日程：2010年10月30日（土）～11月3日（水・祝）
会場：静岡県浜松市・アクトシティ浜松ほか
展示会を併設開催（無料でご入場いただけます）
主催：国際ユニバーサルデザイン協議会（IAUD：総裁寛仁親王殿下）
URL：http://www.ud2010.net/

新聞に掲載されました

誰もが見分けやすい色デザインは可能
しんぶん赤旗

しんぶん赤旗
「誰もが見分けやすい色デザインは可能」
9月23日付

日本印刷新聞
UDの品質担保
第三者認証機関

日本印刷新聞
「印刷物が変われば世の中も変わる」
9月27日付

お知らせ

Tokyo PACK 2010への参加

10月5日(火)～8日(金)に行われた、東京国際包装展（Tokyo PACK 2010）に当機構（以後CUDO）が出展をいたしました。東京パックは、出展者・来場者ともにアジア最大級の包装・パッケージ総合展です。多彩なユーザー層が来場されましたので、より多くの方にCUDを認識していただく機会となりました。
展示ブースには認証取得した製品や印刷物を配置し、実際に来場された方に手にとって見ていただきました。またCUDOが認証をしているシュミレーションツールを展示し、多くの方に色弱者の色覚を疑似体験していただきました。特に、サングラスのように直接身につけることのできるバリアントールをかけた方は、驚きの声を上げる方が多く、CUD化を進める大切さが実感していただけたと思います。

編集後記

毎日バタバタしておりますが、編集作業を進める中でCUDの本来の意味を改めて感じました。ご協力いただいた皆様の原稿によってCUD化の大切さが多くの方に伝わってゆけば幸いです。もっと沢山お伝えしたいのですが文字数制限に悩まされる日々･･･です。

SEASON IN THE CUDO
No. 3 秋号
2010年10月16日発行

発行元：NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構

〒101-0021東京都千代田区外神田1-1-5昌平橋ビル3F
TEL/FAX：03-6206-0678
発行人：武者廣平